## 平成18年度

# 中部地域におけるパートナーシップに 基づ〈CSR 活動調査報告書

環境省中部地方環境事務所

## 目 次

. 調査事業の概要	. 2
. <b>C S R 先進中小企業アンケート調査 実施報告</b>	. 5
. <b>C S R 先進中小企業ヒアリング調査 実施報告</b> 1.ヒアリング調査の概要 2.CSR 活動の先進的な中小企業事例	19
<ul> <li>. CSR 基礎講座 実施報告</li></ul>	5 2

## . 調査事業の概要

## 平成18年度中部地域におけるパートナーシップに基づく CSR 活動調査

### 【調查目的】

中部地域においては、様々な企業が自発的な環境保全活動・CSR 活動を展開しているが、中小企業の取り組みについては十分にその活動内容が把握できていない状況である。そこで、中小企業が地域と共に実施している自発的な環境保全活動事例やCSR 活動事例を掘り起こし、モデルとなる活動を広く社会に知っていただくことを目的として調査事業を実施した。

### 【調查背景】

経済活動がグローバル化し、企業の不祥事が露呈しつつある中で、これを意識する日本企業においても大手企業中心にCSR活動は、近年注目されはじめている。

一方、中小企業においては、環境への取り組みや地域貢献に関心を寄せ、実践してきた企業であってもこれを C S R 活動として位置づけている企業は稀であり、この分野に関する調査は行われてこなかった。

また、サステナビリティ報告書やCSR報告書として利害関係者にこれを公開し始めた大手企業にとっては、CSRの活動段階に入ったところでサプライチェーンとしての中小企業の協力体制が重要な課題となりつつある。

以上のような状況の下で、中小企業におけるCSR活動の先進事例を調査しておくことは、この地域での活動モデルを構築のために欠かせない事業である。

## 【調査手順】

ステップ 1・・・本調査事業の研究会発足「中部 C S R 活動研究会」 (E P O 中部 + サステティナブル経営研究会 + 企業の C S R 推進者)

ステップ2・・・研究会にて、自発的な環境保全活動を宣言している東海三県の中小企業の中から、アンケートターゲットとして 315 社を抽出した。

ステップ3・・・研究会の選定基準により、先進事例としてモデルとなりうる 中小企業30社を選定した。

ステップ4・・・アンケート調査、ヒアリング調査を手分けして実施した。

ステップ 5 ・・・アンケート調査の分析、ヒアリング調査の分析を踏まえ、 2007 年 2 月 6 日に「CSR 基礎講座」を開催し、成果を地元の 関心層 51 名と共有した。

#### 【調查担当】

- ・社団法人地域問題研究所の研究員・嘱託研究員(藤正三、高原稔、村田元夫)
- ・環境省中部環境パートナーシップオフィス(新海洋子、鵜飼哲)
- ・サスティナブル経営研究会(加藤啓介、戸上昭司、牧瀬平次、岡田敏克、近藤隆 司、伊東かおり)

#### 【調查期間】

・平成 18年11月27~平成19年2月28日

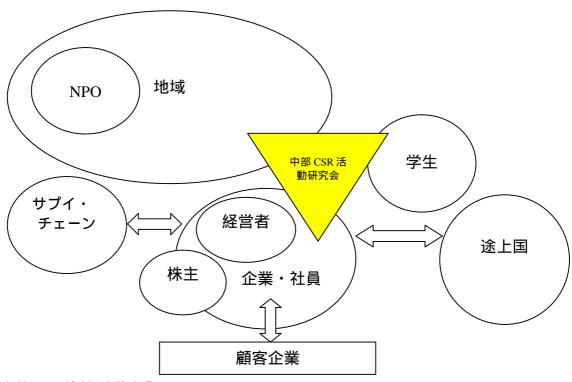
## 【調査結果の活用】

- ・CSR活動が業績向上につながる中小企業モデルを提案する。
- ・本業の中でCSR活動を展開している中小企業事例を公開し、普及する。
- ・サプライチェーンとして自発的にCSRを実行するための課題を提示する。

## 【地域連携のスキーム】

近年注目されている環境保全・CSR 活動は、地域や協力業者や従業員とのコミュニケーションなくしては、実質的な成果は見られない。まずは、企業の環境保全・CSR 担当者同士の交流から始めて、地域の NPO 、従業員、協力業者へとコミュニケーション機会を広げていく計画である。

一方、東海地域では、ものづくりのメーカーが多く中小企業の活動は下請け的な要素も少なくない。特に自動車産業に関わる中小企業が東海地区には多く、大企業の環境保全活動への要請等から必要に迫られて環境保全活動を推進する例も見受けられる。これらの企業にも、自発性を持って地域・NPOとのパートナーシップに基づく活動に参加していただきながら下記の地域連携スキームを展開していきたい。



## 【今後の具体的活動案】

NPO との協働のための交流会

市民による CSR 報告書を読む会

民参加による現場見学会 + CSR ダイアローグ

ステークホルダーミーティング企画・運営

学生とのコミュニケーション(インターンシップを通して)

サプライチェーンへの CSR 啓蒙教育

CSR 担当社員の研修・交流会

CSR 社内報の作成支援

社員の家族と社員のコミュニケーション機会の創出

以上